



丹波抄
中

18
へ利
2.093
2



門 13
番 2.093
卷 之



西山物語

らやーれまき



らあの大いあやま。たやま〜八席あま
えま。守れ直たへまあづまむと。神く
みもい^{齋瓶}ひん^{万葉}なま^{神酒陶}ま^まま^古ま^古ま^古ま^古ま^古ま^古
して。七席う降そぞはる。まう家よあまか
もあませて。こ^密くまげまきるま。ま
たらて人のいいませぬま。あ〜くわ
惜^{をく}ひくひな〜あひか^居ま〜て。神ま

西山



川をみよとてえたてまうう一がが家めて
 も人をたぐて誣言つあられバとおいあむを
 とぞらだのあて紀日本門よか入とらかほを
 けりてく。かくりはは家らんだぬや。う
 へうまされを。いあめとてういんたうえ
 だうはる。まやうゆめせよまじい息
 ま巻れ紀日本何くまめたまう。七部けけあう。
 たくハハ紀日本なるものてだまう。うう一うよ
 じふも。ほひあるううちとらあべ

三神。いふは天の福イハなるまじい。ほひと
 たる何とせたるが。ちり日本た股よおれて
 たやとくうらまはと。たまをアアられは
 まううまびと。あついとるけて古語なむ。
 まるうゆめとまあま。さてハ人のたご
 とはま古語ら。いふはとあもあるも。かの
 太口とらあむ。たるたうらなる古語とありあ
 なる。いふはあはま。まきうふとく。なまじ
 ちりふあめとる年も。能うとんかまは。

とまひしよなほまじらうくかへりてけ
にまひてく。くがて古事とぬまひとまれども
かいそろねむ。枝さりてくまけびん湯たら
る声とぬまひてまらぬくまぬ。何れもや
いふふららまか何事とりてまひてくよ。七言
ハ登アヤうーばううまてまらぬ。母何これ
て刺ひ鑄り子お湯かとせまどもこ松ま何あひまを
一カ葉とく一カはあつまももちのはの
杉終うままじはまあひまひひ。吟古語の
まはさて。そのまじらぬまらぬまらぬあーや

こまひし古事記くまらあひてあまあらぬ。ま
そのぬハ家ぬまらぬ。まのこくまらぬまらぬ
まて。まらぬまらぬまらぬ。火桶まらぬ
乃たがまひ。か金な枕まらぬ古語柄い杖まらぬ催まらぬ馬
おのれとまらぬまらぬ。まらぬ解
洗ら五ひ葉衣洗濯何脚も結北五股今云引脚の半袴中や乃ぬ也。
まらぬまらぬまらぬ。人のぬまらぬまらぬまらぬ
まらぬ。まらぬまらぬまらぬ。思どもまらぬ
まらぬ。まらぬまらぬまらぬ。まらぬまらぬまらぬ

も母と。こころをさしめておこな格日本紀やうの
 たしなれあもたなり。身みのあまのかる
 傳おこな。昔よりこころをさしめておこな。
日本紀今云後とあるは
 しるしと。いふことわらぬ。いふことわらぬ。
いふことわらぬ
 もたしと。いふことわらぬ。いふことわらぬ。
 阿波のぞか。いふことわらぬ。いふことわらぬ。
 糸のぞか。いふことわらぬ。いふことわらぬ。

かこより未。さしめて。いふことわらぬ。
 ようのぞか。いふことわらぬ。いふことわらぬ。
 ひるしと。いふことわらぬ。いふことわらぬ。
 さしめて。いふことわらぬ。いふことわらぬ。
 らぬと。いふことわらぬ。いふことわらぬ。
 阿波のぞか。いふことわらぬ。いふことわらぬ。
 さしめて。いふことわらぬ。いふことわらぬ。
 ようのぞか。いふことわらぬ。いふことわらぬ。
朱雀道西とあるは
 糸のぞか。いふことわらぬ。いふことわらぬ。

うらふ家道よ。木^毎ねたる松^{万葉}のさか
 そのうまかたひのりてかいらら
 事員^{事員}ひ年^{万葉}の舞^{万葉}はげしく^{万葉}さ^後す
 鞍^鞍ら^{万葉}らあさ。身よ、白よありてぬ
 たるか^甲わら^{日本}紀^{日本}まきい家のぬの^{向替}そび
 古^古詰^幡よまらうさ^幡い^幡な^幡こ^幡た^幡ら^幡か^幡い^幡ま
 橋れ出たさみ^幡あうられたる^幡のた
 と^幡い^幡な^幡い^幡る^幡さ^幡せ^幡が^幡は^幡よ^幡ら^幡て
 さ^幡ら^幡そ^幡え^幡たる^幡せ^幡け^幡ひ^幡よ^幡あ^幡り^幡い^幡る

いけほいでい^幡な^幡家^幡鬼^幡も^幡れ^幡さ^幡ら^幡あ^幡り
 け^幡い^幡め^幡が^幡い^幡か^幡ら^幡う^幡け^幡鬼^幡ぞ^幡い^幡心
 ふら^幡あ^幡り^幡な^幡れ^幡さ^幡ま^幡の^幡さ^幡彼^幡あ^幡の^幡志^幡り
 と^幡い^幡たる^幡さ^幡あ^幡ら^幡ぬ^幡あ^幡ら^幡の^幡さ^幡ら^幡ぬ
 万葉のるい^幡ま^幡ら^幡う^幡こ^幡
 こ^幡の^幡ま^幡せ^幡ら^幡う^幡
 い^幡ら^幡て^幡さ^幡ら^幡第^幡よ^幡か^幡い^幡さ^幡み^幡か^幡ら^幡よ^幡ら^幡を^幡紀^{日本}
 か^幡な^幡ら^幡し^幡石^幡か^幡の^幡ら^幡し^幡新^幡そ^幡ら^幡あ^幡ら^幡う^幡
 て^幡ま^幡ら^幡あ^幡ら^幡も^幡よ^幡古^幡詰^幡う^幡古^幡詰^幡う^幡と^幡よ^幡ら^幡う^幡ら^幡て
 い^幡ら^幡や^幡ら^幡ら^幡大^幡声^幡よ^幡せ^幡め^幡け^幡ら^幡か^幡の^幡鬼

かやことうちあひく。なれハ^汝ちあをたせ
 け^ひ長めて何^ひ家^う。おのれハ^なめがく^まら^らおや
 み。太刀とこむり^れ。一^橋正成よ^てり^す
 何^は家^ぞ。何^がの^は海^たわ^ちの^また^て常^に
 その^の火^口と^られた^う。し^もく^もて^りが
 し^もか^ら入^らる^るま^らる^る。是^とう^ぞえ
 と^たん^なわ^しに^{。くれ}。謀^とと^せり^先
 た^う。何^もも^さ家^の行^くこ^もせ^しま^らち
 ま^けく。子^う。し^もか^ら入^らる^るま^らる^る。何^もも^さ家^の行^くこ^もせ^しま^らち

原氏お流
奇怪

月日を^おり^が。い^ろく^くま^らる^る。し^もく^もて^り
 し^もか^ら入^らる^るま^らる^る。し^もく^もて^り
 け^こや^{。ゆ}や^ぞ七^は代^が何^のい^ひ。秘^はは^む
 じ^の世^はい^ろく^くま^らる^る。ま^らる^る何^のい^ひ。秘^はは^む
 と^おり^が。し^もく^もて^り。れ^こら^らま^らる^るが^し。
 ち^たび^らく^くま^らる^る。し^もく^もて^り。れ^こら^らま^らる^るが^し。
 又^は何^のい^ひ。し^もく^もて^り。れ^こら^らま^らる^るが^し。
 秘^はは^む。し^もく^もて^り。れ^こら^らま^らる^るが^し。
 し^もく^もて^り。れ^こら^らま^らる^るが^し。

頭
何れ古語も家ごとくねや。さういひくや
か真の鬼ら古事記日本と大カりてまじひや。やど
く紀万葉とめろろこ。まよひてま
はなれとさうさうけしてしす。遊ひやむ
ず古語と。ほ古語と發言とあざとの詞
な。しねくのぬら道に家とれ
何ぞ。秋さうぞひあかくら乃ままにいか
乃なさるねぞ。何ももいらぬ。あま
れかままばまらけぬ入カれなる也

こひのいひい。其やらみほひとか
す。そのいららたまよまこて。今み鬼と
ならてあねるもならぬなり。あま
もぬらまやいねく。さらけたまらぬ
そととぬ。いまぬせ。いまぬま
と。いひ何ぞとまけぬ古事記日本紀
はまらぬやぬびほららと啼
とまひよ月乃ひらひらひら
おま今時とうとやぬらぬの
まらぬらとらと啼

いふはくはらりよえられた。花のしる
白よ海。乃ちあうのくはうま家のい
了。さうもあやしの葉。花のあうは
なりと今ぞあやまう。く古物語の言としうて身と
あふ。いふは。あまのくはあまとなす。

琴乃巻

八音を太刀にけりをよらう結くも。その
名四方もや表らよ紀たう。世乃結やひも万は万葉
まさうゆれば。おのほらとみよひもあまな
ひうまのほらよ。あまをとりく。只ハてりよは
しをあまの同。人とあうめてらうま古事く記声。
甲もさう万葉よあゆみ海もあま。りよはてし所教子。
おくらちも。まらうとぎいせあまのまのまのまして。
いふはくはらりよえられた。母とてあまとなす。

西山

そほさう一おど。ゆよ。ほら。かからん。さ
 け。き。え。く。まの。曲。久。あ。う。と
 う。せ。ど。ほ。う。き。あ。さ。く。あ。れ。と。ゆ。く
 今^{古語今云}あ。う。さ。う。て。あ。よ。も。入。れ。た。
 今^{古語今云}さ。う。い。と。と。さ。の。ご。す。い。ま。る。^{のま}
 かし。く。ま。は。ゆ。め。と。そ。う。ゆ。め。
古語今云乃。い。う。う。と。さ。う。て。さ。う。さ。し。ゆ。め。よ。
八祿号及。く。も。ち。か。さ。ゆ。め。と。う。の。ゆ。め。
 か。り。や。う。ゆ。め。と。さ。う。ゆ。め。と。ゆ。め。

い。も。た。こ。ら。か。か。ゆ。て。は。よ。は。い。と。な。う
 し。ゆ。め。と。い。ゆ。め。と。ゆ。め。と。あ。ゆ。め。と。
 よ。ゆ。め。と。ゆ。め。と。ゆ。め。と。ゆ。め。と。
 り。ゆ。め。と。ゆ。め。と。ゆ。め。と。ゆ。め。と。
 し。ゆ。め。と。ゆ。め。と。ゆ。め。と。ゆ。め。と。
 申。よ。な。ゆ。め。と。ゆ。め。と。ゆ。め。と。ゆ。め。と。
 梅。り。て。ゆ。め。と。ゆ。め。と。ゆ。め。と。ゆ。め。と。
 じ。ゆ。め。と。ゆ。め。と。ゆ。め。と。ゆ。め。と。
 万葉今云
 ま。ゆ。め。と。ゆ。め。と。ゆ。め。と。ゆ。め。と。

まうらもよろよまべくなせしむしき家。
あつ^うさうてきんを。ほしけのみにあはるてあ
るの^{加陵類哥}さき^{さき}てまうら^{まうら}おたむむらうら
おらげ〜。

いふのほむじ日乃あまなこあまを
人れいざのく秋まうら^{万葉}きむ
とらうら〜いさむら。月をほめて
やうのあがれとむらうら^{万葉}さうら
あはきう〜。あまのさうら

まふがらうらえん。

ことあまあまのあうら^{万葉}さうら
こらたがれのあま〜^{万葉}あま
と。あまのあま〜あまのあま
はひのあま〜あまのあま^胡
らあまのあま〜あまのあま^古
あまのあま〜あまのあま^稱
あまのあま〜あまのあま^葉
あまのあま〜あまのあま。

ちねみまゝにさびしき酒のよめ
 人さよこくれは積よも心家万葉
 とらひいふまゝに酒をえそまが
 舞よのまはなすこら合らぬまに
 ざんぬぬさささのよめおのこ
 おのれらもさびしきまゝに

何れもさささのよめおのこ
 積よも心家のまゝに
 舞よのまはなすこら合らぬまに
 ざんぬぬさささのよめおのこ

なまごころほさけいしよ吹れく色の
 乃きよまはなりおのがさささ乃赤
 さささのよめおのこさささ乃吹
 何れもさささのよめおのこ
 乃きよまはなりおのがさささ乃赤
 さささのよめおのこさささ乃吹

とまじよひとさめけきとけねらぐ飛
 と積よはのまはなすこら合らぬまに
 さささのよめおのこさささ乃吹

又この海は昔のえりね。昔は海に遠く
なほひまこがたは。はまののちのち海
又海はつばさ。何ともかからず。海
はのみちをみまはす。はまのちのち。Sea
もとや。老のち。はまのち。海
じうひあつれ。と。海はまのち。か
心より。ちのちのち。はまのち。海
ちのち。ちのち。ちのち。海
く。はまのち。ちのち。はまのち。海

「万無味の字は意に
葉はよいれぬやう

か。海はまのち。ちのち。海
昔。ちのち。ちのち。海
ちのち。ちのち。ちのち。海
及。乃。ちのち。ちのち。海
教。よ。ちのち。ちのち。海
ちのち。ちのち。ちのち。海
海。は。ま。の。ち。海
八。海。も。ち。の。ち。海
か。海。は。ま。の。ち。海

日本紀
海はまのち

げいせぬ後 ふきまのま なる歌して。こゝおりのひよめ
とこそうけぬれ。しつらうせし所とハ。あ
なるも。いふ。これが母とぞ。神親とおも
ひ。ワのふとぞ。う海にも。弟とも。おわい。た
つて。見ま。あて。はれ。ど。おのれ。い。を。こ
乃。あ。る。い。石兼。あ。う。た。う。あ。と。せ。し。所。が。大。力
あ。う。せ。る。お。う。ち。今。あ。ほ。や。け。る。は。り。の。子
と。か。む。し。し。う。う。一。よ。あ。も。か。く。ら。み。さ。う。え。つ。
か。れ。た。く。む。い。へ。日本。よ。こ。そ。あ。れ。お。う。ま。い。る

ももむし。飯日本紀は。い。り。我。あ。て。り。た
る。と。う。し。と。も。む。し。志。六。せ。伏。山。が。の
拾遺集山依もゆもか。た。ら。ひ。な。り。さ。ふ。と
今ととゆりのりやそゆしよ
くれが。姉日本紀と。稚日本紀子の。い。え。め日本紀と。せ。む。ハ。千
び。ま。の。い。と。し。紀。ら。ま。こ。さ。け。し。づ。ね。が
お。り。と。し。え。ん。む。じ。が。こ。し。た。と。え。ん。た。は。さ。か
さ。あ。よ。じ。い。も。あ。け。し。よ。ま。お。り。て。う。け。ひ
く。ま。う。う。り。て。せ。し。所。よ。ま。う。の。た。ま。と。せ。い
いと。む。ら。ら。る。じ。う。び。と。も。さ。ふ。ら。の。な。を

